

課題名:「大腸癌における悪性度と炎症細胞との関係の研究」について

○研究の意義・目的

腫瘍の進展は、腫瘍細胞とその周囲組織から作られる微小環境（炎症細胞、血管・リンパ管、繊維芽細胞、細胞外基質などの間質組織）が重要な役割を果たします。腫瘍微小環境に存在するマクロファージは腫瘍随伴マクロファージ(tumor-associated macrophage:TAM)と言われ、量的にも腫瘍進展への影響度において主体を占める細胞と考えられています。しかし、大腸癌とTAMやその他の炎症細胞(T細胞など)との関係についてまだ解明されていないことが多いのが現状です。本研究では、大腸癌の深達度等の臨床病理学的特徴と炎症細胞（マクロファージや T-cell 等）と

○研究対象者

2009年1月～2021年12月に広島大学病院にて内視鏡的・外科的に切除を施行された大腸癌症例。